

1/36
DIE-CAST

世のため人の為、 朴訥な「ハコ」は働き続ける

PATROL CAR/AMBULANCE ■ バトカー / 救急車

■ ダイアベット1/36 ■ ダイキャストモデル ■ 各¥2,100(税込) ■ 株式会社アガツマ Tel.04-7126-6611(お客様相談室) <http://www.agatsuma.co.jp>

photo:Yukihito-HATTORI(野田洋行)



何をいさらですが、改めて確認するならばゴンは乗用車、ライトバンは商用車。モータリゼーションが成熟した現在では当たり前の認識ですが、しかしかつての日本では「平日は仕事に、休日は家族のドライブに使えるワゴンとは、ちょっと豪華な商用車」という勘違いも珍しくありませんでした。確かにそのころは、純粋に商用車として生まれたバンの内外装だけを華美に飾り立てて「一丁上がり」とした名ばかりの「ワゴン」も多かったですが。しかし時代が変わりビジネス・ユースを想定しない乗用車ベースのワゴンやミニコンが当たり前になってくると、そもそも「純粋に仕事の為に生み出されたクルマ」を無理矢理「乗用車風」に仕立て上げる必然性も薄れてきました。もし、漫画映画のようにクルマが自分の意見をしゃべれるならば「最近はずの様に厚化粧して無理を演じる必要も無くなった。仕事一筋に打ち込めばいいんだから、ボカサせだなぁ」とでも言うのではないのでしょうか。

そんなわけで、自動車メーカー各社からリリースされている最近のワンボックスは、プロフェッショナルが使い倒すツールとしての迫力が、以前にも

増して感じられるような気がします。そんなジャンルで圧倒的な人気と実力を誇っている1台といえば、ご存知トヨタ・ハイエース。本来のポジションに立ち返り道具に徹した朴訥なワンボックスは、警察の事故処理車として、あるいは救急車として、

様々な現場で活躍しているわけです。どんなジャンルのクルマであっても、それぞれが生み出された目的に沿って使われている姿が一番美しい。改めて、そんな事すら思い起こさせてくれるダイアベット、ハイエースのバリエーション展開でありました。

◆DK-3107 バトカー ¥2,100(税込)
DK-3111 トヨタ・ハイエースをベースにしたバリエーションモデル。車名は単に「バトカー」となっているが、交通事故等の現場に出動する警視庁の事故処理車がモチーフ。リアの指示板には「事故」の文字がプリントされる。スケールは1/36で側面と後部のドアが開閉する。オマケにパイロン2個が付属する。



◆DK-3106 救急車 ¥2,100(税込)
こちらは東京消防庁の車輛をモチーフとした救急車。パルーフ化されており、室内の機材やシートなども再現されている。付属のストレッチャーは後部ドアから出し入れ可能。あえて側面のスライドドアが未開のままでは開かないのは、子供が誤って開かないようにとの配慮から。



今月の友情出演

DK-5118
トヨタ・ハイエース
¥1,990(税込)

バトカーと救急車のベースとなったノーマルのハイエース。このモデルには厚紙を折って組み立てる段ボール箱が付属する。1/36スケールで側面と後部のドアが開閉するのは他のバリエーション同様。

